第3回　アジア国際水会議参加報告
～国際交流活動　ARRN活動報告～

自然環境グループ　研究員／日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）事務局　森本　洋一
自然環境グループ　主任研究員／日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）事務局　和田　彰
審議役／日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）代表理事　土屋　信行

1．はじめに

皆さんは、日本河川・流域再生ネットワーク（通称JRRN）をご存じでしょうか。JRRNは良好な河川の保全・再生が創り出す健全な水循環系及び歴史・文化と共存する地域社会の実現に向け、河川再生について共に考え次の行動へと後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に[1)]、2006年（平成18年）11月に設立されました。地域発、地域協働の手作り型の自然再生である『小さな自然再生』のバックアップなど、地域に根差した活動を行っているのが特徴です。また、JRRNはCRRN（中国）やKRRN（韓国）といった、アジア各国の河川・流域再生のネットワーク組織が参加するARRN（アジア河川・流域再生ネットワーク）の日本の窓口としても重要な役割を担っており、毎年、ARRNのフォーラムや運営会議へ参加しています。本稿では、令和6年9月に行われたARRNの水辺流域再生国際フォーラム及び運営会議について報告したいと思います。

2．第20回水辺流域再生国際フォーラム

第20回水辺流域再生国際フォーラム（以下「国際フォーラム」という）は、第3回アジア国際水会議（3rd Asia International Water Week）の1つのセッションとして行われました。国際フォーラムでは、ARRNメンバー以外からの参加者も多くみられるなど、活発な議論が展開されました。

日本からは、『機械学習を用いた河川の地被区分の自動判読に関する研究事例※1』（**写真1**）と『河川水辺の国勢調査と自然再生について※2』の二つのテーマの発表が行われました。中国からは、河川流域における生態水文学に関する研究発表が行われました。中国では約10年前から生態水文学に関する調査・研究が急激に増えており、中国国内の環境意識の高まりとともに、環境に関する研究予算が増加している状況を伺い知ることができました（**写真2**）。韓国からは、Changneung川（昌陵川）における流域全体の自然再生プロジェクトについての報告等がありました。このプロジェクトでは、現状の把握、現計画のレビューをした上で、安全性、健全性、親水性、生態との共生の観点から新規目標を設定し、個々の目標達成のための計画・設計を行う流れが紹介されました。

SIDE EVENT SE-10

Framework and Strategy for River Restoration from the Perspective of Climate Change

14:00-18:00, 25 September 2024, Wednesday
Beijing International Convention Center, Room 305#-CD

SUB-THEME: Framework and Strategy for River Restoration from the Perspective of Climate Change

ORGANIZER(S): Asian River Restoration Network (ARRN), China Institute of Water Resources and Hydropower Research (IWHR)

PROGRAM

14:00-14:10	Opening	Moderator:
14:00-14:10	Opening Ceremony, Opening address by the CRRN, JRRN, and KRRN.	
14:10-17:40	Speeches and discussion	Moderator:
14:10-14:30	Presentation	HU Wei: Chief Engineer, Center of river and lake protection, Ministry of Water Resources of China
14:30-14:50	Presentation Estimating in-channel vegetation using satellite imagery and machine learning (provisional)	MORIMOTO Yoichi: Researcher, Japan Riverfront Research Center
14:50-15:10	Presentation	JANG Suk-Hwan: Professor,Daejin University
15:10-15:30	Presentation	XU Mengzhen: Professor, Tsinghua University
15:30-16:00	Tea break	
16:00-16:20	Presentation Development of River Environment Database and its Application to River Restoration in Japan	WADA Akira: Senior Researcher, Japan Riverfront Research Center
16:20-16:40	Presentation	LEE Hyosang: Professor, Chungbook National University
16:40-17:00	Presentation	ZHANG Junya: Associate Professor, Research Center for Eco-Environmental Sciences, Chinese Academy of Sciences. Vice President of European Chinese Association for Eco-Environment
17:00-17:20	Presentation	PARK Moonhyung: KICT
17:20-17:40	Presentation	ZHU Hongtao: Professor, Beijing Forestry University
17:40-18:00	Conclusion	Moderator:
17:40-18:00	Closing remarks	

For more information about the 3rd Asia International Water Week, please visit https://3-aiww.scimeeting.cn

図1　国際フォーラムのプログラム

3．第18回ARRN運営会議

9月26日に行われた「第18回ARRN運営会議」（以下「運営会議」という）では、日中韓の各RRNメ

写真１　筆者（森本）の発表の様子

写真３　運営会議における JRRN の報告（和田）

写真２　CRRN の発表スライド

写真４　温榆川の自然再生箇所

ンバーが参加し、ARRNの年次活動計画についての審議が行われました。

前回の運営会議以降のARRNや各国のネットワークの活動内容を共有することから始まり、来年の運営会議の開催場所、事務局の移管（来年の運営会議以降、事務局を中国から韓国に変更する）についての協議が行われました。また、中国からは、ARRNの連携や取り組みを強化するために、国際的な研究助成の活用等について提案があり、今後具体的な検討を進めることとなりました。

４．自然再生の現地見学

運営会議の翌日は、中国水利水電科学研究院の案内のもと、北京郊外の温榆川の現地を見学しました。見学箇所は、治水対策のために河道を直線化した箇所でしたが、同時に、環境に配慮した断面形状となっており、良好な氾濫原環境（ワンドやたまり）が創出されていました。中規模河川の重要性を再認識する機会となりました。

５．おわりに

今後もARRNの活動を通して、中韓等のアジア諸国や世界と協力し、情報共有しながら河川や流域の再生に取り組んでいく所存です。なお、令和７年度のARRNの運営会議は、オーストラリアのブリスベンで行われる第26回国際河川シンポジウムの中で開催され、令和７年９月８日に無事執り行われました。

※１：発表タイトル：Estimating in-channel vegetation using satelite imagery and machine learning
発表者：森本洋一

※２：発表タイトル：Development of River Environment Database and its Application to River Restoration in Japan：和田彰

参考資料

１）日本・河川再生ネットワークホームページ
http://www.a-rr.net/jp/